

思いつく ままに

小池 康堂

▶323◀

人々は太古から川とともに暮らし、多くの恩恵を受けてきた。そうした恩恵は人間だけでなく、多くの生きものたちに等しく与えられた。紀伊半島の川を舞台に撮影を続ける自然写真家

の内山りゅうさんが映像を通して伝えてくれているのは水の大切さ、どこまでも青く透き明かな水。この清らかな水を求められている。この清らかな水こそ、あらゆる命の源泉なのです。NHKプレミアムで13日に放送された「ワイルドライフ」のナレーションである。

「中でも銚子川はとてきれいな水。地元の人々は美しい川を普通だと思っているが、そうではない。銚子川は国内でもトップクラスの清流だ。こんな川が現代に残っているのは奇跡に近い。こんなに美しい川は内緒にしておきたかった」。かつて、なんども銚子川へ

やってくる地元の人たちに「清らかな流れが意味するもの」を訴えてきた。内山の姓に親近感を覚えるのだが、代々魚河岸の家に生まれた江戸っ子であった。1962（昭和37）年8月生まれの60歳。東海大学海洋学部水産学卒。初めて銚子川にやって

紀伊半島の川の中の世界に迫った映像

清らかな水こそ命の源泉

きたのは33年前の1990年。仕事場を紀伊半島に決めて和歌山県白浜町に移住、空港近くに家を建てた。銚子川の河口あたりで子どもたちと水中生物に触れ合う場面もある。子どもが離れどのように歩いたのか

2018年11月、NHKスペシャル「見えないものが見える川」奇跡の清流銚子川へ心地よい。初めて見る荘厳な自然の姿に

心をつたれた。77年後の今もすっかり覚えている。その岡村先生はクリンング店の長男で24歳であつた。大正11年12月生まれ、介護施設に入所されたといふ。100歳の長寿。その4年後には同町主催の「銚子川の奇跡」と題して講演。「日本ほど水が豊かな国は少ない。海外ではガソリン1リットルより水1リットルの方が値段が高い国が多い。複数の国が接する国際河川が多く、水をめぐり紛争の歴史もあるが、日本ではそうだった経験はまったくない。銚子川は世界に誇れるすこい川であることを知ってもらいたい」と言い続けた。

紀伊半島の川の撮影に挑む内山さんに密着したテレビを見て、水の恩恵をあらためて思い知らされた。

2023.3.24